

# ERATOプロジェクトの立ち上げを行っています。

**私**は、ERATOのプロジェクト(PJ)・ヘッドクォーター(HQ)業務を行っています。2011年9月までは、主に東京工業大学「彌田超集積材料PJ」(彌田PJ)を担当し、現在は、富山県立大学「浅野酵素活性分子PJ」(浅野PJ)のHQを担当しています。

独創的な研究を行うERATOでは、研究領域立ち上げの際に幅広い分野から新たに研究員を集め、新規に研究拠点を開設します。この時に必要となるメンバーの公募や、面接などの人事にかかわる事務手続き、研究拠点の改装工事や物品購入手配などは、私たちHQが行います。そのほか、PJの進捗管理や専用ホームページの開設対応、計画書や報告書などの作成補佐などもHQの仕事です。こうした諸々の雑務を、研究者の希望をくみながらHQが一手に引き受けることで、研究者が研究活動に専念できるようにしています。

浅野PJの立ち上げ作業は、採択が内定した2011年夏から始めました。9月までは富山に出張して対応していましたが、彌田PJのHQ業務にめどがついた10月からは、富山県立大学にデスクを構えて業務を行っています。



## 研究プロジェクト推進部

主査

西村佑介 (31) にしむら・ゆうすけ

### ●業務の内容

富山県立大学に駐在し、「浅野酵素活性分子プロジェクト」の立ち上げ業務全般を行う。また、東京工業大学「彌田超集積材料プロジェクト」の研究進捗管理や、新規プロジェクトの選考業務なども担当している。

### ●Background

埼玉大学卒業、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻修了。博士(理学)。専門は発生生物学で、マウスES細胞から繊毛細胞への分化誘導条件を研究した。JST入社4年目。3年目から現部門。

今回は、まず事務部門にデスクを設け、各種の交渉や手続きについて大学との緊密な連携を心がけています。また、県立大学という特性から、県庁との折衝が多岐の場面で必要となります。こうしたときにも、大学事務の方に協力いただき、PJの立ち上げが進んでいきます。浅野PJは富山県立大学で初めてのERATOということもあり、富山県からも大きな期待をいただいています。プロジェクト採択決定時には私も富山県知事にお会いする機会を得て、激励の言葉をいただきました。

富山での駐在期間は1年を予定しています。最初の6カ月は、ほぼ立ち上げに専念します。そして、PJが本格稼働する4月以降は、現地で採用したHQメンバーに業務を覚えてもらうように引継ぎを行います。私たちJSTの職員がいなくても、PJがうまく進む体制を築くのです。

ERATOの研究期間は5年ですが、その前に半年間の「環境整備期間」を設定しています。研究体制や設備の整備を事前に行うことで、PJをスムーズに立ち上げるのです。浅野PJは、今がまさに「環境整備期間」です。研究総括の要望をできる限りかなえた体制になるよう、4月からの本格稼働を目指しています。



左)富山県立大のデスク。大学の事務担当者には、現地マスコミへの広報対応を始めとする、さまざまな協力をお願いしている。



中)浅野泰久研究総括(富山県立大学教授)と現地採用HQメンバーの西野さん。右)京都に設ける予定の分室ラボスペース。



TEXT:Office彩蔵